

生活困窮世帯の ペット飼育支援 事業

認定NPO法人 人と動物の共生センター
鈴木 恵美子



支援の必要性と現場の課題



預け先

飼い主が入院前に直面する困難



衛生

高齢者の多頭飼育による問題発生



支援

福祉職員が直面するサポートの難しさ

動物相談ホットラインの概要

開設時期

動物相談ホットラインは2022年8月に開設され、ペットに関する様々な相談を受け付けている。

相談対象者

本人や家族、福祉職員、行政関係者など、幅広い対象者から相談がある。

相談内容

多頭などによる飼育困難やペットの世話が難しい場合、入院時の預け先の確保に関することが多い。

支援の流れ

【相談受付】

まず、電話や訪問で相談を受け付け、相談者のニーズを確認し、必要な情報を収集。

【状況整理】

次に、飼い主とペットの状況を整理し、相互のニーズを把握して支援方法を検討。

【情報共有】

その後、福祉や動物関係機関と情報を共有し、連携して支援を進める体制を整える。

ペット問題と福祉の関係性

- 入院妨げ

ペットの存在が入院や施設入所をためらわせることが多く、必要な医療を受けられないケースがある。

- 衛生問題

多頭飼育により衛生環境が悪化し、動物と人間の双方に健康リスクをもたらすことが懸念される。

- 支援拒否

ペットと離れることや殺処分になることへの不安から支援を拒否。



支援により好転した事例

1. ノミ、ゴキブリ、ゴミまみれの家に住む、高齢の母、身体障がい息子 猫11匹

行政への不信感から支援拒否。猫のフード支援、不妊去勢手術、屋内清掃ボランティアに入る。警察の安否確認や救急搬送も。現在は母親が入所し、息子は生活保護。猫は1匹に。

2. 所持金200円。50代男性。猫10匹

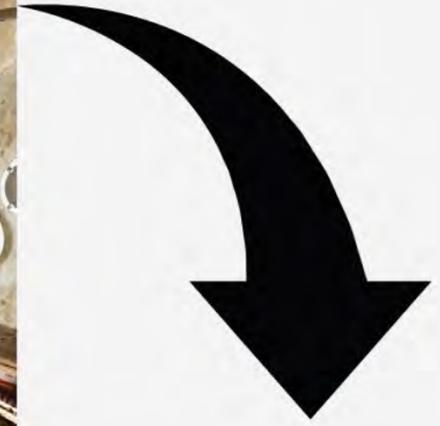
猫のボランティアから電気が止まってどうしようもない家があると相談。生活保護をためらうが申請。猫のフード支援、カセットコンロ、ガスヒーターを貸出す。現在は仕事を始め、フードも配送支援で安価なものを提供。猫7匹に。

3. 愛犬が生きがい、生活保護、独居高齢者

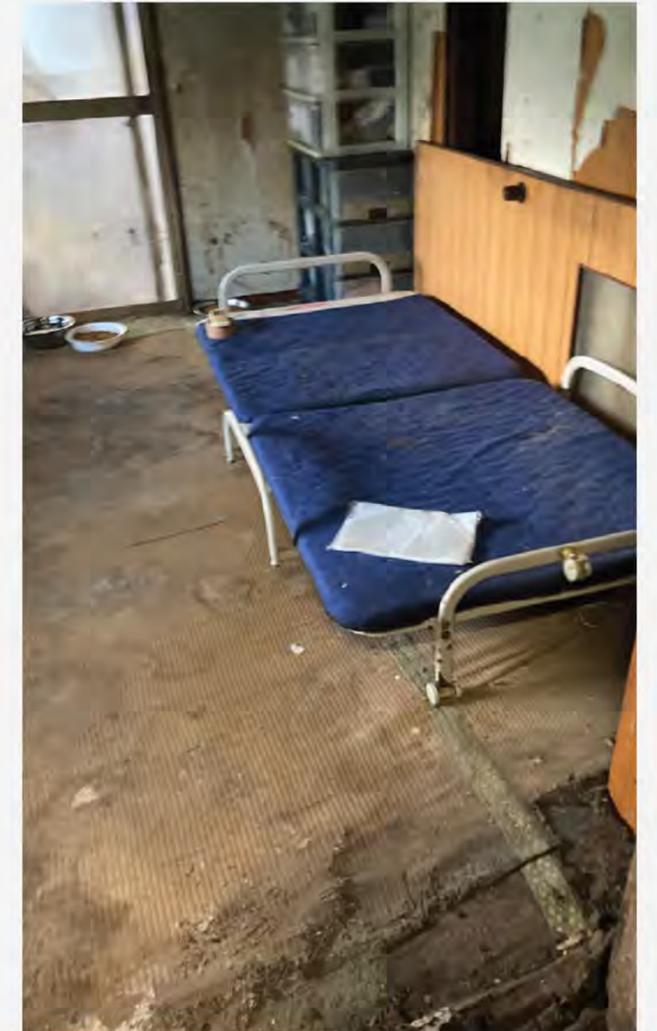
犬へのお金の使い方が問題とケアマネからの連絡。脳の動脈瘤が見つかるが、犬を置いていけないと入院拒否。入院の間安価で預かる契約を取り、退院後飼い方アドバイスをを行う。現在は愛犬と共に施設入所。



before



after



支援の内容の紹介

ペットとの暮らしを支えるために...

社会福祉関係者の方からのご相談や住民税非課税世帯に対し、通常より安価なサービスの提案を行っている。

- 不妊去勢のための動物病院への送迎
- 寄付で頂いたものや割安なペットフードのお届け
- 入院による一時的なペットのお世話
- 日常の困りごとなどの相談（ペット以外も）



ペットの飼育にお困りの方へ 私たちがお手伝いできること

1 避妊去勢手術の実施のお手伝い

- 安価な価格で実施できる専門の動物病院をご紹介します。
- 動物病院への送迎をお手伝いします。
- 捕まえられない猫の捕獲をお手伝いします。

2 フードのご提供（無償）

- メーカー等からご提供頂いたフードをお渡しいたします。
（フードの銘柄は指定できません。）

3 入院時の一時的なお世話

- 検査入院等、一時的な入院の際のお世話代行をします。
- お世話費用は、1日あたり1000円です。
- 動物の引き取りは行っておりません。

4 その他のペット飼育に関するご相談

- その他、飼育に関するご相談をお受けいたします。

（認定）NPO法人 人と動物の共生センター

〒500-8225
岐阜県岐阜市岩地2丁目4番3号
（ドッグ&オーナーズスクール ONELife 内）
代表電話：058-214-3442

支援窓口直通 火～金 9:30～16:00



まとめと今後の展望

連携の重要性

福祉と動物支援の**連携は不可欠**であり、双方の効果
を最大化するためには、**協力が求められる。**



ホットラインの役割

ホットラインは、実践的
支援の基盤として機能し
ており、適切なサポート
を提供するための重要な
手段となっている。



モデル構築

現場からのフィードバックを基に、制度設計へ活用することで、持続可能な支援体制の確立を目指したい。



ご清聴ありがとうございました！

